

碩心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認可
神奈川 碩心会 発行

62年2月現在 会員数
返子地区 175名
葉山地区 280名
大船地区 64名
(合計) (519名)

62年2月号 (175号)
発行 者 萃 岳
根 岸 集 者 岳
編 村 集 者 岳
中 村 集 者 岳

初吟会を終えて思う

大船A 村井 清山

恒例の初吟会は、曇一つないおだやかな
天氣に恵まれた一月十八日、京急ビーチセ
ンターに於て、二八二名の多数参加により
盛大に行われました。

御多忙の松井先生・新田先生・安孫子先
生、鹿嶋先生の御臨席をいたゞき、余興を
含めて大いに大会を盛り上げて下さいまし
た。厚く御礼申し上げます。

今年には千葉香岳先生の御指導のもと、朝
早くから集まった大船A、B、松和、戸塚
の各支部の尽力により段取された会は、順
調に進行致しました。いつもながらの歯切
のよい加藤圭岳先生の名司会で、各支部の
初吟が行われ、すばらしい年の幕あけとな
りました。

余興の部はいつ練習されたのか、皆さん
の見事な芸が次々と披露され、度肝を抜く
ような奇抜なものもあり、拍手喝采の連続
でほんとうに楽しいひとときを過ごさせて
いたゞきました。

今年も根岸先生の吟じられた「寒梅」の
如く、元気に花を咲かせるよう努力したい
と思います。諸先生の御指導のもと、詩吟

はもとより、芸達者の碩心会の皆様に、今
後とも色々な面で御指導、御鞭撻をあおぎ
たいと思っておりますので、どうぞよろし
くお願い致します。

碩心会五十周年大会決定

と き・62年6月14日

と ころ・衣笠「はまゆう会館」

新春 偶吟

松和 宇都宮 徳風

湘南海岸彩雲、晨 欲拜初陽、入満、浜

忽上紅噉歎喜響 祈年拍手寿、佳春

湘南海岸彩雲の晨 初陽を拜せんと欲して、人浜に満つ

忽ち上る紅噉歎喜の響 祈念の拍手佳春を寿く

◎常任理事会開催さる

と き・62年1月31日(土)6時半より

と ころ・桜山下会館

(議題)

(1)50周年記念吟道大会に係る実行委員会設
置の件

(2)上記大会企画の構成吟の制作進行状況に
ついて(スライドによる試写会)

(3)その他

◎ 碩心会・春期審査会

- ◇と き・62年3月15日(日)10時開始
- ◇と ころ・逗子市立図書館ホール
- ◇審査料・支部毎にまとも、当日迄に納入
- ◇許証料・支部毎にまとも、三月二十五日迄に、中村・又は広瀬方へ納入

◎ 段・伝位について

最近入会された方をはじめ、御問合せが
ありますので左記に一覧表を掲載します。

(段・雅号)	(履修年限)	(許証料)
初段	入会后六ヶ月以上	(二千元)
二段	初段受証後六ヶ月以上	"
初伝(泉号)	二段 " 六ヶ月以上(三千元)	"
三段	初伝 " 六ヶ月以上	"
四段	" " 六ヶ月以上	"
中伝(山号)	四段 " 一ヶ年以上(五千元)	"
五段	中伝 " 一ヶ年以上	"
六段	" " 一ヶ年以上	"
奥伝(風号)	六段 " 二ヶ年以上(一万円)	"
七段	奥伝 " 二ヶ年以上	"
八段	" " 二ヶ年以上	"
皆伝(下位)	八段 " 三ヶ年以上(二万円)	"
九段	皆伝 " 三ヶ年以上	"
十段	" " 三ヶ年以上	"
総伝(上位)	十段 " 四ヶ年以上(三万円)	"

県本部主催

中国シルクロードの旅

日 時・62年8月10日(月)から十日間
コース・(北京)蘭州)敦煌)西安)上海他
会 費・三十九万円
(詳細は加藤岳相先生迄)

第92回全国吟道大会参加

県本部吟行会のお誘い

- 日 時・62年9月12日(土)15日(火)
- 第一日目 羽田)宮崎)堀切峠)鶴戸神宮)おび)サボテン園)青島
 - 第二日目 青島)宮崎市内(第92回全国大会参加)えびの高原)霧島
 - 第三日目 霧島)霧島神宮)人吉)八代)水前寺公園)島原)雲仙
 - 第四日目 雲仙地獄)長崎市内(平和公園)クラブ)邸)大浦天主堂等)羽田
- 会 費・九万五千元
申込)切)一月末日(なるべく早く申込を)
申込先)加藤岳相先生迄

◎ 地区大会の期日変更

横須賀第二地区大会は六月二十一日(日)鎌倉中央公民館分館に於て行われます。

あゝ七尾城 (1)

堀内・D 新井 衛山

上杉謙信は、石山本願寺及び遠く西国の毛利氏などと手を結び、尾張の織田信長を挾撃せんとして兵を越中から能登へ進めていったが、信長の方も越前から加賀・能登へ勢力をのばし始めていた時であり、ついに七尾城(現石川県七尾市古城町)での対決となったのである。

謙信が能登、畠山氏の領国を攻略し始めたのは天正四年(一五七六)九月で、この時の七尾城の城主は畠山義春であった。しかし義春は当時四才の幼君であり、その実権は家臣の長統連、綱連父子ら一族が権力を握っていた。

謙信は、能登に兵士を進める前に、七尾城に対し使者を立て、自分に味方するよう勧誘工作をした。城内では長父子の親、信長派の意見が大勢を占め、七尾城は謙信と対決することになったのである。

上杉勢はその年の十月に、七尾城以外の畠山氏の支城をすべて落し、大軍をもって七尾城を囲んだが、山城である城は護りがかたかく、容易に落城しない。謙信は城を包囲したまゝ越年したが、天正五年三月、関

東出兵のため、ひとまず囲みを解いて、越後春日山城に戻っていったのである。

七尾城側ではその留守に長父子が奮い取られた支城のいくつかを奮還するなどの反撃をしたが、七月になり、再び謙信の大軍が能登に押し寄せ七尾城は包囲された。

夏の暑い盛りである。籠城中、城内では水不足と不衛生のため、伝染病（赤痢）が流行し、そのため城主の畠山義春は病死、他の将兵もかなりの者が死んで士気阻喪の状態となった。それ故、長綱連は弟の連龍を装束させて信長のもとへ送り、至急援軍の出兵を要請したが、信長の方も急いで援軍を送れる状態ではなく、戦いは八月、九月と続けられた。

なお城を包囲中の謙信も、堅城である七尾城を正面から力攻めするのは時間もかかり、犠牲も多く出さねばならぬと考え、ひそかに城中の遊佐統光及び温井景隆に連絡をとり「内応すれば畠山氏の旧領と七尾城を与えよう」という約束を伝えた。これを受けた内応派は早速主戦派の長父子とその一族を謀殺して、内から城を開城し、謙信の軍門に降った。堅城七尾城はこのように経過をたどり、殺戮的な最後の激戦をすることなく落城したのである。

(次号へつづく)

練吟メモ 素読 (二)

○ 桂林荘雑詠諸生に示す(三) 広瀬 淡窓
幾人か笈を負うて西東よりす
両笈双肥前後の豊ほう
花影すだれに満ちて春昼永く
書声断続して房窓に響く

(大意) 桂林荘の塾生は九州全土から集まっている。だから、出身地も筑前・筑後・肥前・肥後・豊前・豊後にわたっている。今やすだれいっぱいに梅の花がうつり、うららかな春の日は永い。勉学に励む塾生の読書の声が高く窓外に響いてくる。

○ 後年には九州だけでなく、塾生は全国六十八カ国中、実に六十四カ国から集まり、その数は総数四千六百十八人に達したという。学則の厳格であったことは有名であるが、淡窓自身の学識と人格の卓越していたことによるものであることは言うまでもない。結句の書声とは漢籍の素読のことで、一日中朗々と音読が行われていた風景が画かれている。

○ 前回は、寺小屋における漢詩文の素読と、戦後における小学校の国語教科書の斉読について述べたが、ついでに、戦前の国語読本に触れておきたい。特異の推理小説作家

で、また中国史家としても著名の陳舜臣氏は、その著「日本人と中国人」の中で、「私の幼年時代の思い出は、日本の教科書のハナ・ハト・マメの素読と、祖父から受けた三字経（江戸時代の児童教訓書）の素読のことである」と述べている。以上二回にわたり、素読の事例を幾つか挙げて来たが、要は正しい発音で、大きな声で繰り返し読むことが、漢文習得の基盤であることを例証したかったまでである。

○ 吟詠を前提に行う漢詩の素読は、正しい発音で行わなければならない。木村岳風先生は「吟道」昭・17・1月号で、「詩吟は正しい発音で、十分声を張るように」求めている。ここでいう発音とは、簡単に言うてアクセントのこと。例えば「九月十三夜陣中の作」で、その出だしの「霜は」であるが、教本は中音符一つしか付けてない。だからといって「シモは」と中音で平らに発音したのではだめ。「シモは」と、モ一字を高く、シ・はの二字は中音（低く）で発音するのが本当。指導する方は事前にNHKの発音辞典を参照されたい。現在において、発音の間違ひは中央では絶対に通用しないことに注意。最後に、素読とおりの発音の詩句に、余韻をつけたのが詩吟であると言われている。

碩心会 62年初吟会 会計報告

会員 278名 招待 4名

(62.1.18 於 逗子京急ビーチセンター)

収 入 の 部			支 出 の 部			
摘 要	金 額	備 考	摘 要	金 額	備 考	
会 費	834,000	3,000×278	会場借上料	180,000		
指導者より寄付	25,000		持込料	24,000		
祝 儀	35,000	新田 先生 安孫子 〃 鹿島 〃 小林紫舟 〃 金指萌風 〃 沼田竜山 〃	飲み当み	421,500	1,500×281	
			みか	84,300	300×281	
			飲	20,000	580ヶ	
			物	138,460		
			清酒	3,740	2本	
金子商店値引分	3,460		ワンカップ	61,820	220×281	
			ビール	44,800	140本	
			伍ジュース	28,100	100×281	
			ワンカップ追加	1,050	350×3	
			余興参加賞	7,500	もみのり150袋	
本部会計より補助	30,000		簿紙筆代	3,000		
			名簿紙お車代	12,000	4人	
計	927,460		議	7,500	3回	
現品寄付 清酒	桜山A 西村昌風 稜 山の根 中村三代 〃 金子商店 〃 水上商店 〃		おビ	4,550		
			消耗品代	1,100	200ヶ	
			通信連絡費	2,800		
			担当支部へお茶代	1,700		
			担当支部へお茶代	10,000		
			計	927,460		

62. 1. 25 以上の通り報告いたします。

担当支部代表	戸塚 鈴木 萃岳 ㊟ 松和 木村 松風 ㊟ 大船A 岩崎 恵岳 ㊟ 大船B 森田 嶺岳 ㊟	企画 部長 千葉 香岳 ㊟ 副部長 綾部 秋岳 ㊟
--------	--	------------------------------

初吟の当番を終えて

大船地区長 森田 暁岳

六十二年一月十八日、碩心会の初吟会が逗子ビーチセンターで開かれました。今年は大船地区が当番になったので、各教室一丸となって早朝から準備に取り組みました。なにしろ大船地区は会員数が少ないので、全員が役員となって、千葉先生や先輩の方々のお手伝いを頂戴し、定刻に開始する事が出来ました。

当日は思いの外暖かく、皆さん出足も上々で、元気に初吟会を楽しむ事が出来ました。余興の部も多く申込者があった、とても盛上がり、笑いささめくうちに時が過ぎ最後にダンスやら、炭坑節を踊って終りにし、三井先生の万才三唱で、定刻十六時に盛大裡に終了しました。お手伝い下さった皆様、御多忙の処早朝からのお手伝い有難うございました。

(入 会)

781 一柳良治 横須賀市林四一七一四
(逗子 A) (電) 〇四六八一五六一六四四九
782 奈良泰子 横浜市戸塚区小矢部町
一三三八一二 (鈴木荘)

(松 和) (電) 〇四五一一八六一一八五九七
(退 会)
59 前司臣風(逗子 A) 618 新倉 康(下山口)